

様式3

令和4年度 第1回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 福 光 浩

評 価 日	令和 4 年 6 月 2 4 日 (金)	
評 価・提 言		学校の所見・改善策
1 目標設定について		・学校目標の形を昨年までと大きく変えて、目標を一本化し、10年超の長期目標、5年程度の中期目標、当該年度の短期目標とした。 ・IBの理念に沿った長期目標とすることで、生徒全体にIB教育の効果が波及することを狙っている。 ・教育理念の概念図である「倉吉東高のかたち」にIBとICT活用の枠を加えた。
2 評価項目と目標達成のための取組について		
(1) 学校の魅力化・特色化の推進		
・IB, ICT等の新しい取組と、根幹となる基礎学力の保障との両立について、どのように考えているか。 ・授業等での発問に対する解答を生徒の端末入力できないか。そうすれば自分の思考がデータとして残り、その後の学習での活用と、主体的な取組に繋がり、観点別評価にも活用できる。		・「自ら問を作ることのできる」能力の育成には、ベースとなる基礎学力を身に付けることが必須であると考えている。 ・生徒に評価の観点と理由を示す必要がある。その上で、生徒と教員のためになる評価方法となるよう工夫する必要がある、御指摘のとおりとなるようにしたい。
(2) 学校の諸活動の活性化と発信		
・人権教育LHRは、企画担当で取り組んだ生徒の考えは深まるが、聞く側の生徒が受け身のままで終わっているのではないか。		・ICT導入により、聞く側の学びも活性化されている。テーマを柔軟性のあるものとして、能動的に取り組む生徒を増やすことができると考える。また、この企画によ

3 具体目標について ・観点別評価と、それを行うための指導との関連をどのように設定していくのか。 ・キャリア教育について、地域には倉東高は「進学のみ」というイメージがあるが、就職志望の生徒も受け入れるのか。 4 目標達成のための具体方策について ・I B授業改善方策の「地域に公開」という部分の具体策を進めて欲しい。 ・I B校認定に向けた最終局面に入った。学校主導の取組だけでなく、県教委にも強い関わりを求めて実現を確実なものにして欲しい。 5 その他 ・生徒支援においては、I C T活用によるデバイス視聴に関わるストレスへの配慮も必要ではないか。	りリーダーが育成されることの利点は大きい。 ・まず生徒に、評価の観点と理由を示す必要がある。その上で「観点別評価を行うため」の評価ではなく、生徒が自分の学力を把握でき、学力向上につながるように計画していきたい。 ・公務員中心だが就職志望の生徒もあり、その指導にも適切に取り組んでいる。 ・中学生体験入学でI B授業の模擬体験を行う。来年度入学生には、求める人物像を明確にした特色入試を予定している。 ・I Bディプロマ校認定については、I B推進委員会を実施し、高等学校課と打合せを行いながら、校舎改築等も含めて進めている。 ・授業展開に演習の時間を入れるなど、画面を注視し続けることを避ける配慮を行っている。端末がスマートフォンからクロムブックとなり、小さな画面を見ることの負担は少なくなった。今後はアンケート等で生徒の負担感を把握したい。
---	--